

ま ら め き



第15号

施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成20年2月10日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、豊岡光生園：〒299-1742 千葉県富津市豊岡 3535-1

Tel. 0439-68-1711

三 芳 光 陽 園：〒294-0825 千葉県南房総市上堀 280

0470-36-3211

鴨川ひかり学園：〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297

04-7099-3311

湊ひかり学園：〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18

0439-70-6551

ケアホームCOOO：〒299-1616 千葉県富津市海良 92

0439-67-3380



親子後も子供たちが安心して

生活していけるシステムの完成こそが

私達の願いです

理事長 山崎 幸男

また、新たな年となりました。

混迷の二〇〇七年は皆様のお力添えにより何とか無事乗り切る事が出来ました。

お蔭様で通所施設「鴨川ひかり学園」及び「湊ひかり学園」では新法を睨んで順調に移行の準備を進めております。

特養「三芳光陽園」では個人の日中過すスペースを新たに三箇所新設し、小人数単位のきめ細やかな介護が可能な様に工夫致しました。その他、フライバシーを尊重する目的で個人向けに温泉浴の出来る浴室を新設し、トイレ等も全て改良致しました。デイサービスは活動のスペースを広げ、大浴場も開放し温泉浴を楽しんで載いております。此れ等の改修は全て昨年三月で終了致しております。

入所施設「豊岡光生園」では支援方法を集団活動中心型から個人活動中心型に変更し、昼夜、休日等、ON、OFFのメリハリある一般社会での生活に近い形に致しました。此れに伴う諸設備の準備も、目的通り順調に進んでおります。

既に一昨年十二月に開設致しましたケアホーム「COOCO」と、昨年十二月開設致しましたケアホ

ーム「MOMO」では、小人数での落ち着いた、OFFの生活を楽しんで載いております。重い障害を持った利用者でも一寸した工夫や支援方法の改善に依ってはケアホームでの生活が可能な事を経験致しました。そして其の為の訓練を薦めて居る処で御座います。近々、行政の援助を戴き入所施設よりケアホームへ転出する為の自活訓練棟を開設する予定で居ります。この訓練の状況を見ながら、今後ケアホーム二棟と手狭になって参りました日中活動の場を確保する考えで御座います。

更に、近年中には老朽化した園舎で長い間辛抱させて参りました光生園利用者の内、ケアホームでの生活が難しい利用者及び重心者にも早く希望に近い生活が送れる様に園舎のリファイン改修をしたいと考えております。



此れ等は障害者自立支援法や介護保険法に沿った一連の流れではありますが、利用者のQOL向上を目指して、保護者と職員が長期間検討を重ねた結論を一部具現化したものでもあります。斯様に新法形式への移行準備が順調に推移致して居ります事は、偏に皆様の暖かいご支援あればこそ御座います。心から厚く御礼申し上げます。

組織面では、これらを総合的に効率よく運営していく為に、行政との関連を考えながら、諸活動

や作業主体の「日中活動の場」と生活主体の「入所施設やケアホーム」に大別した管理方式を検討致して参り度いと考えて居ります。

特別支援学校高等部迄は公的機関が整備されて居りますが、卒業後、親達の高齢化、或いは、亡き後の「真に支援が必要な時期」の公的整備は現在でも殆ど為されて居りません。

三十年以前、法人設立に際しての親達の思いは、「利用者と保護者が希望する限り生涯継続し支援出来るシステム」を法人の全能力を駆使して一刻も早く作り上げる事で御座いました。介護保険法や障害者自立支援法の施行により一時混乱は致しましたが、このシステムの完成が親子後の問題解決であり、惹いては地域社会の福祉にも繋がる事であると深く信じて居ります。特に昨今の様に混沌とした先の見えない社会保障制度の下では、一層この思いを強く致しております。

私達は念願の思いに向って一途に前進して参りたいと考えております。

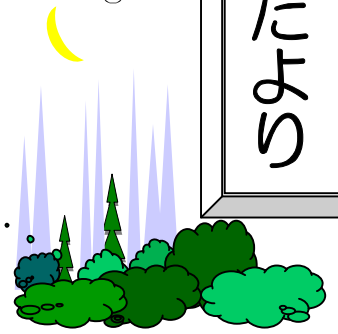
どうか本年も宜しくご指導ご鞭撻の程御願ひ申し上げます。



シリーズ 『なやめる』 ②

眠れる森の美女

(一)



その出来事の後、彼女は、時々同じような状況に陥る。状態の重篤さや切迫感は次第に和らいできたが、年に数度、繰り返す波のように彼女を襲うこの状況が現れるたびに私たち職員は緊張する。精神運動発作のようでもあるし、精神不安からくる興奮状態のようでもある、投薬不適合のようにも見えた。神経作用が異常に尖がって、片時も座ることができず、歩行が止まらなくなり、横になって休むこともできなくなる。むろん、食事もできない。自分の意志や行動が、背後に潜む何者かの凄まじい力で支配され、操られているように見えた。

彼女は疲れ果てて、横になろうとする。だが、横になって数秒と経たないうちに、目に見えない支配者にだだき起させられてしまうのだ。座ることも許されず、行きつ戻りつ歩き続けることを頭の中の支配者は命じる。止まらない。一刻も休むことができない。彼女はだまらず金切りの声を発する。普段とは違う奇声。

(助けてくださいー！)

彼女の悲痛な心の叫びが、ただ見守ることしかできない私たち職員の胸を刺し続けた。

(二)

午前三時、後部座席に二人の女性を乗せたワゴン車が扇総の山道を時速二〇キロでとるところと走る。街灯の無い鬱蒼とした森の中の暗い道をととさらに選んで走る。女性二人は毛布にくるまれ並んで横たわっていた。巡査に呼び止められたら何と説明したものか。見ようによっては、奇怪な光景である。だが、少しでも明るいところだと彼女は起きてしまう。小気味のいい車の振動がようやく眠気を誘い、彼女が微かな寝息を立て始めてから五時間近く経っている。医師に相談し、考える限りの手立てを試みた後の三日振りのまとまった睡眠を彼女はとっていた。

車は、三芳村の山中で折り返して、大多喜城を目指していた。後部座席のもう一人の女性は、この夜のドライブの助手を買って出てくれた昨日早番の職員である。彼女を抱っこして添い寝して、一緒に眠ってしまったのだ。彼女が寝入る前に、その職員は、おだんご大の三角おむすびを二つ食べさせることに成功している。彼女は、大好物のご飯さえ口にしなくなっていたのだ。

彼女がお茶を飲み干した時、少しほっとした気分になった。そして今、彼女は寝ている。

この状況の出口が近いかも知れないと思った。遠くの山波の稜線が暁闇の空に浮かび上がってきた。



(三)

様々な原因が頭を去来した。歯科通院で全身麻酔をして治療をしたことも頭を離れなかった。私は長文の手紙を歯科医に書いた。すぐ歯科医から懇切丁寧な返事がきた。ほんの僅かだが、そういった神経症状の可能性もあると真摯に書かれており、ひとりの利用者の困難な状況に対して知見を寄せ合って立ち向かっていきたいという私の提案に十分に心えてくれるものだった。

発作の可能性も否定できなかった。発作を契機に同様の神経症状や行動に陥る利用者も数名いた。だが、彼女は、なかなか脳波検査が難しかった。普段飲んでいる抗けいれん剤と風邪薬を併用すると尖った行動が激しくなる利用者もいた。状況はそれぞれ似ており、それぞれ違うように思えた。分らない……。結局原因がこれだとは断定できなかった。

この夜のドライブで比較的長い睡眠時間とられ、飲食が僅かにできたことを境に、脳内がクルダウンするかのようになり、彼女は快方に向かった。その後、何の前触れもなく、同様の状況に時折陥る彼女ではあるが、いつも、ほおに微笑を湛えて、しゃなりしゃなりと歩く彼女に戻ったのである。むろん、あの夜の車中の寝顔よりもずっと穏やかな眠れる森の美女、しおりさんとなって。

鳥居

夜、皆の寝姿を静かに覗く。穏やかであれと祈りながら。

満たされし 寝息は闇に溶け込みぬ

いのちの炎群よ やすらげくあれ

(三)

光陽

『里帰り』

二年前、いすみ学園から光陽園に移られた文夫さんとふみ子さん。園長の用事に便乗し、里帰りすることとなりました。ふみ子さんから直々にご指名を賜り、同行することになった私。他の施設を見学するのは初めてで、まして障害者の施設ということでも、とても楽しみにしていました。

十二月四日、十一時頃園を出発。途中、鴨川で風食をとりましたが、風だというのに園長が文夫さんにビールを勧め、文夫さんも笑顔でおいしそうに、それを飲み干していました。後でどうなるか・・・、ふみ子さんと顔を見合わせた私です。

食事を終え、海岸沿いを走っていた車は、いつしか田んぼの中の一本道をいすみ鉄道の線路に沿って走っていました。橋を渡って、パンフレットに載っていた通りのみどりの電車で迎えられ、いすみ学園に到着。光陽園から約二時間、私にはとても長い道のりに感じられました。

後でふみ子さんに聞くと、「あんなもんだよー」とケロッとされていました。



いすみ学園の原井園長に歓迎され、応接室に通されたお二人。光陽園では見られないような笑顔で話をされていました。まさに嫁いだ娘が、実家に戻って、一服したといったところでしょうか。こういう笑顔がいつも見られるよう努力していきたいと思いました。

その後、施設職員の方に案内され、作業場を回りました。お二人とも旧友との再会に、笑顔の花を咲かせていました。

が・・・途中から、文夫さんの様子がおかしいのです。ビールの影響か、足がフラフラしいじめ、一人で歩けなくなってしまうのです。最後は私と施設の方に両脇を抱えられて、何とか玄関前に止めた車までたどり着いたのです。

その姿を、後ろから見ていたふみ子さん。

「園長、責任とってよー！」

とは言いませんでしたが、内心、大変な里帰りになったなと思ったのではないのでしょうか。

でも、楽しかったですね、ふみ子さん。

(介護員 丸山)



『ブーム到来』

リビングルームで過ごされるおばあさま方の間で、スカーフがブームとなっています。

冬らしくない冬ですが、スカーフを首に巻く姿は、なんとも愛らしく、大先輩方に対して失礼とは思いますが、正直、「かわいい」とつぶやいてしまいます。

ほのぼのユニットのみみ子ちゃん。

「スカーフがお似合いですねー」と声をかけると、照れくさそうに、

「似合わねーよー」と一言。

そして、ちょっと間をおいて、

「ありがとよー！」

この“ちょっとした間”が、なんともかわいく奥ゆかしく感じます。実際の年齢より三〇歳、いや五〇歳くらい若く感じてしまう私です。家のかみさんにも、見習わせなければ・・・。

(施設長 神谷)



(注)イラストは、ご本人ではありません。念のため。

ひかり通信

『ひだまり、あるいはそれは、ひだまりの』

今時、朝送迎に出発するワゴン車は冷え切っています。暖房を入れたって中々暖まるものではありません。でも一人迎え入れる度にぐんと暖かみが増すのです。そのや体温三六度の表面積の大きな存在だし、きっと輻射熱効果もある・・・

なんてのはつまらない話で、私はそれを「陽はなくとも人だまり現象」とか「押しくら饅頭効果」と称しています。機械的な熱よりはるかに芯から温めるのです。

陽があるのなら陽だまりを、陽がなくても人だまりを、人だまりを呼べる、人だまりが似合うのが、今回成人式を迎えたお二人です。

あなたが初めて力を張る

泣き声をあげる

引き換えに吸い込んだ外気は

体の奥深くいつまでも残る

その味は

そのにおいは

あなたがこれから生きる時代

母なる川をかぎつけて上っていく魚たち
ただひたむきに

その営みが、あなたにとっても、親にとっても二〇年といじょう。

或る時は父に刺を抜く術を教わり、或る時は母に熱を冷ます知恵を教わり、そして、或る時は友と・・・!

それが成人式の意味なのです。あなたの人だまりの一員として、心からおめでとございいます。



(住本)

『回るお寿司で 心が躍る』

鴨川の回転寿司、丸藤さんのご好意で、総勢五十一名が招待され、三日間に渡りご馳走になりました。平日とはいえ、ここ鴨川は観光地という事もあり、昼時はお客様で満員でした。車椅子が通る時には、他のお客様が椅子を引き笑顔で「どうぞ、どうぞ」と暖かく応対して下さいました。

席に着き、流れて来る色々なネタのお寿司に目を凝らし、お目当てのお皿に手を伸ばします。

「海苔巻き下さい」「稲荷下さい」「ケーキください」と次々に注文をし、板前さんに貰います。

白魚を見つけた太田和さんは、目を輝かせ手をたたきお皿を取るとにっこり笑って愛しそつに見つめて パクリーと口の中へ入れました。

健さんには、何とか自分の手で取って貰おうと、半ば強引に手を取ってお皿に導こうとする職員。

しかし健さんは、負けずに職員の手を振り払って、ぴしゃりとはたいて、手を引っ込めてしまったのです。仕方なく勝手に選ばせて貰い、テーブルに置くと「ニッ」と笑って一口で食べました。そして、次々と目で合図を送るのです。健さんは自分で選ぶより選んで貰うのが好みの様です。また、お寿司のナマが苦手と言われていた古賀さんは、マグロやカツオを好んで戴き、「古賀さんは寿司が好き」という新事実が発見されたのでした。

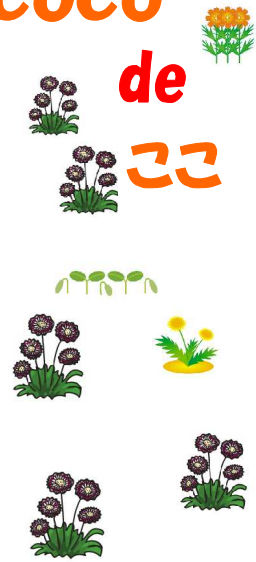
小原さんもお寿司は苦手な方で、朝から浮かぬ顔でした。「小原さん、回転寿司っていろいろなものが出て来るから、ケーキもあるし・・・」そんなことを話していると急に顔がほころんで、ルンと足を踏み鳴らし、結局、玉子と稲荷とケーキを戴きました。またまた新発見でした。

最後に三日間に渡り、新鮮なネタのにぎりを、たっぷり戴かせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

丸藤さん、本当にありがとうございました。

(石塚)





「もったいない」

（一）「ゴミ袋」
 COCOには、熱心「ゴミ」の分別をしてくれるおじさんがいる。「ゴミ」の分別は「ゴミ袋の色で緑・赤・青・黄の四種類に分けられている。何曜日に出すか、本人に聞けば即答してくれる。間違っても燃える「ゴミ」はプラスチックが入っていない。」

「あー、あー」「きこる」と分別してくれる。

「袋がいつびい「な」たら、捨てようね。」「という言葉に、「心不乱に袋がいつびいになるよう「ゴミ」を集めてくれる。」

時に、袋がいつびいにならないが、明日がその「ゴミの日」ということがある。おじさんは考える。

明日は収集日。「ゴミ」を捨てたい。

でも袋はいつびいにはない。

でも明日は収集日。

「もったいない」

そんな時かけられる言葉が、「もったいないから...」

缶などの青い「ゴミ袋やガラスなどの赤い「ゴミ袋はなかなかいつびいにはならない。」

分別もしてくれる。

捨てる曜日も合っている。

あとは、いつびいか、いつびいでないか。

一枚、十五円の「ゴミ袋。」



（二）アームバンド
 明日はクリスマス会。
 一ヶ月も前から、クリスマス会の話が出る度に、胸に手を当てて、

「ネクタイしたい」という身振りを続けているおじさんがいた。所持金は心許無かったが、出来れば望みを叶えてあげたいと近所の洋服屋さんに出かけた。

おじさんは、店内をウロウロしながら、目的のネクタイ売り場を探し当て、お気に入りの一本を選んだ。次に、隣のYシャツコーナーでシャツを選び始めた。

そうこうしていると店員さんがやってきた。感じの良い明るい店員さんは、ふらつくおじさんの身体を支えながら、首周りと袖丈を手際よく採寸してくれた。

三点ほど用意されたものから選んだ一枚のYシャツは、首周りは丁度よいが、袖丈がちょっと長いものだった。さてどうしたものか。

「アームバンドはありますか?」

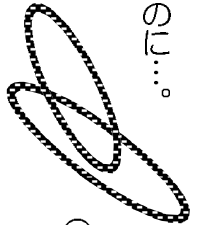
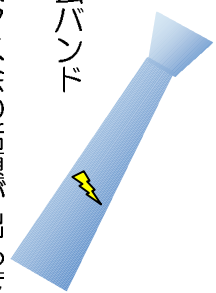
の問いに、店員さんは、アームバンドの売り場へ案内してくれた。そこで店員さんの一言。

「もったいないから、輪ゴムでもいいじゃないですか?」

その悪気はない言葉を聞き流し、アームバンドを選び続けているじい。

「失礼でしたね。ごめんなさい。」
 とちよつと済まなそうに店員さんは言った。
 明日はクリスマス会。
 そつ店員さんにも話したのじい...

輪ゴムじゃねえ。



(井上)

ファッション事情 - N COCO

いま、ケアホームCOCOでは、髻を生やすことがブームである。道博さんがあこの下に髻を伸ばしている。四、五センチの黒々とした数条の髻である。動作もゆったり、ゆっくりだし、見るからに温和でふくやかな顔なので、あだ名以上に「大仏さん」である。いや、「毘盧舎那仏」といったほうがぴたりくる。買ひ物に彼と出かける時、皆さん、癒されるのか、にわかには仏心を起こすのか、道博さんに直接挨拶してくれる。

なかなかお似合いの髻であるが、ファッションに火をつけたのは浜崎さんである。管理者の鳥居が持っていた写真美術館の写真集に載っていた「モヒカン刈り」がいたく気に入り、床屋でそれに近い「ベッカム刈り」にしてもらったのだった。それが大変よく似合った。趣味でカメラを構える彼の個性が、一段と引出されているようだった。もっと個性を演出しても良いのではないか、ということになった。以来、やれネクタイだの、シャツだの、ケアホームMOMOの春男さんのちよび髻はいやらしいだの、わいわいがやがやである。ついに管理者鳥居まで髻を伸ばし始めた。



昨年12月開設された
 ケアホームMOMO

学園新聞



「ボクは見てるよー」

毎日、利用者の笑顔をしながら、これからの事を考えてみます。色々な事があるだろうなと思います。楽しい事だけじゃなく、悲しい事、苦しい事・・・皆、色々な経験をして生きていくのだと思います。時々、目の前の言葉のない利用者の声が聞こえてくるような気がします・・・

* * * * *

ボクは話をすることが出来ない。

ボクは自分で動く事が出来ない。

ごはんも、着替えも、トイレも、誰かに手伝ってもらっている。

周りの人たちはボクの事を「重い障害を持っている」と言っていて、とても大切にしてくれる。

おじいちゃん、おばあちゃん、うれいんだけど・・・

でも、時々、嫌に感じる時がある。

ボクは家の中にいたいのに、「天気がいいから外に出ようね！」って、やさしい笑顔で、外に連れ出されてしまった。

食欲のない日に、「たくさん食べてね！」って、やさしい笑顔で、でも、ちょっと強引に、「ごはんを口に入れられてしまった。

トイレに行きたくないのに、「時間だからトイレに行こうね！」って、やさしい笑顔でトイレに連れていかれた。

ボクの思ってる事、分かってくれてる人ってどれくらいいるんだろう？ たしかに、どんな時でも、ボクは何も言えない。でも、思った事、感じた事はみんなに伝えてるよ。ほら！ まばたきをしたり、体をよじってみたり、口を動かしてみたり、咳こんでみたり・・・

ボクに出来る精一杯のアピール。その時に、少しでも、ほんのちょっとだけ、気をつけて見てみて！

ボクはいつもみんなを見てる。ちゃんと分かる

ている。だからみんなも・・・ お互いに通じあえたら、うれしいな！

(鈴鹿)



「新車両が入りました！」

鮮やかなゴールドのプレミアムシートです。七人乗りで車内も広く、ゆったり、快適！ 送迎がもっと楽しくなりますよ。

もちろん、送迎だけでなく、園外活動等、外出の際にも活躍します。まだまだ、寒い季節ですが、元気に出かけて行きましょう！





祝 成 人



おめでとう！！



法俊さん



妙子さん



淳一さん



舞さん



大輔さん



恵美さん



昌紀さん



まりこさん



友大さん



二〇〇八年、湊ひかり学園では、
九名の利用者の方が成人を迎えら
れました。
おめでとうございます！

これまでの二十年間、そして、
次の二十年、またその次の二十年、
さらに・・・
人生はまだ、始まったばかり。先
は長いですよ！

皆さんのこれからの一層の活躍
を期待しています。
お互いに頑張りましょう。

(職員一同)

